



「干支和」との出会い、平成17年に自身が水沢25歳厄年連翔西陣の1参加者としてかわったことです。翌18年に水沢商工会議所職員に転職し、昨年の第5回から事務局として携わるようになりました。自分が厄年活動を経験したこともあって特別な思い入れもありますが、何より『地元が明るく元気になれる催しに』という思いで祭りの運営に当たっています。

初めて干支和まつりが行われたのは、平成16年の夏。春祭り

## 奥州市全体のまつりに育て 全国に発信

で情熱的な盛り上がりを見せる厄年連（年祝連）の創作演舞を「再び披露する機会をつくれなにか」「全国に誇れるメジャー祭りにできないか」という思いからこの祭りが企画されました。

わたしの前の担当者が、水沢江刺、前沢の歴代厄年連30団体を1軒1軒歩いて出演を打診。

水沢と江刺の厄年連13団体が参加し、第1回の干支和まつりが盛大に行われました。昨年から、名称を「干支和」に変更し、さらなる発展を目指しています。

今まで夏祭り実行委員会の中で運営してきましたが、6回目となることは、干支和単独で実行委員会を組織しました。これは年を経て出演側の「熱が冷めないように」すること、継続出演するきっかけにするため、出演団体主導のまつりにしたいとの思いからです。

ことし一番の成果は、本年度の水沢・江刺・前沢の25歳厄年連が合同で一つの演舞を披露したことですね。当日披露した演舞は、3団体それぞれのクライマックスをつなげたものでした。大観衆が見守る夕暮れ時のフィナーレ会場で、息の合った演舞で若者らしく躍動する25歳厄年



例年8月に水沢区駅通りを会場に行われている「干支和」。この祭りは、水沢・江刺・前沢区の伝統になっている厄年連（年祝連）の創作演舞にスポットを当てたものです。市内の歴代厄年（年祝）団体が集結し、熱気あふれる演舞で観客を沸かせます。市内ではおなじみの「厄年連の創作演舞」ですが、全国ではほかに例がない取り組みといわれています。その点に着目した担当者の思いは、奥州市から『全国発信』。この「干支和」の取り組みについてお聞きしました。

- ①初の合同演舞で1つになった水沢・江刺・前沢の25歳厄年連
- ②平成21年前沢42歳厄年連
- ③平成19年水沢42歳厄年連
- ④平成20年江刺42歳年祝連
- ⑤演舞後、手を取り合う25歳の各会長

### ●第6回干支和実行委員会事務局

宮澤 孟<sup>はじめ</sup>さん(28)  
=水沢区寺小路=

昭和56年生まれ。県立水沢高卒業後、福島大で学ぶ。営業職を経て18年4月から水沢商工会議所（現奥州商工会議所）職員。振興課で干支和事務局を担当。

